

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2026 年 2月 26日				
放課後デイサービスヤシノキ						
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		活動内容に応じ空間を分け安全確保している。	活動スペース活用状況の発信を強化。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%		職員配置を状況に応じ柔軟に調整。	支援意図の見える化を行います。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		段差・動線の定期確認。	完全バリアフリーでない部分の安全対策強化します。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		毎日の清掃・整理整頓徹底。	衛生管理の可視化にしていきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		特性に応じた環境調整をおこようとしている。	個別配慮内容の共有強化します。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%		月次振り返りでPDCA実施、参加していくように促している。	振り返り時間の確保します。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		面談等で、お話しする機会を増やしていき、共有、業務改善に繋げている。	説明機会の増加します。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		職員会議で業務改善共有している。	改善結果の文書化します。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%		外部研修参加参加し、外部講師を招いて、研修や、評価をいただいている。	引き続き、外部講師を招いて、業務改善に繋げていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		内部研修を定期実施している。	専門分野別研修の拡充していく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		支援プログラム公開し、保護者にも共有させてもらっている。	活動目的の具体的説明していきます。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%		アセスメントを丁寧に実施。	評価根拠の明文化に努めます。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		計画作成は複数職員で確認。	共有漏れ防止策強化いたします。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		支援計画を共有。	共有タイミングの統一を計画していきます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		記録を毎日入力。	質の均一化を目指し、日々の観察共有を積極的に会議などで発言するよう促します。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		ガイドラインに基づく支援を行っています。必要に応じて、保護者と話した内容も共有し、次の支援へと繋げていくようにします。	具体例の提示をし、意見交換を行うようにしていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		チームで活動立案し計画して、プログラム提示しております。	事前共有の徹底を行なっていきます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		子どもの意見反映していくよう、子供達とお話していくようにしています。	引き続き、記録や、共有を行い、固定化しないよう努めていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%		個別と集団の組み合わせ支援を行い、臨機応変にできるよう、支援計画作成している。	効果検証強化をしていくよう努めていく。

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		事前打合せ実施し、視覚的にわかるよう見本の作成、事前にSSTを職員で行うようにしている。	時間を確保していき、引き続き計画的な支援が行われるよう強化していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%		活動後振り返りを行い、気づいたことを共有できるよう、職員の時間を設けている。	小さなことでも、記録を行うことで、次の支援へと繋げていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		日々の記録確認を行い、気づいたことは次の支援へと繋げている。	分析時間確保していくよう努めていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		定期モニタリングを行い、サービスの見直しをし、適切な支援を行うようにしている。	引き続き、モニタリングを行サービス向上のため、支援内容を見直していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	100%		ガイドラインに沿った内容で、支援をおこなっている。	再周知を行うため、年間研修を経て、職員に周知していく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%		自己決定支援を行えるように、一人ひとりの声を聞くこと。拾うことを徹底している。	引き続き、支援向上のためサービスを徹底して行なっていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		定期的に行われるサービス担当者会議などは、参加するよう促している。	情報共有範囲拡大のため、引き続き、参加を促し、サービス向上のため企画していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		必要に応じて、連携が行われている。	定期的な情報共有の時間を作っていくよう努めていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%		学校の情報は保護者を通して共有し、送迎時に連絡事項を話して。場合によってはカンファレンスも行う。	学校との連携はとても大切なので、今後も必要に応じて共有させていただきたい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%		情報連携体制構築を行う。必要に応じて、療育情報提供を行うこともある。	迅速共有をしていく必要がある。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%		移行支援を実施している。	引継ぎ様式の改善を行っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100%		支援センター連携を行い、必要に応じて必要な機関へと繋げていく。	参加頻度向上のため、日々の支援内容を把握し、共有できるように努めていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	100%		地域交流の実施、子供達の交流の機会を作っている。	周知強化をしていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100%		協議会参加があれば、必要に応じて指導員が参加している。	引き続き、必要に応じて参加を促していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		連絡帳活用を行い、現在ではアプリを使用し、気軽に確認・連絡できるように周知させていたっている。	内容の充実さをもっと溢れるようにしていきたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%		家族支援の案内をしている。研修・参加できる情報は随時共有させていただいている。	参加率向上を図るために、具体的な内容を発信していく必要がある。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		重要事項説明を詳しく説明させていただいている。	説明資料更新を行い、不備がないか確認していく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		日々の変化や、意向を再確認し、連絡を取れるようにしている。	頻度調整し、訪問する、もしくは来ていただくよう調整していただく。説明をする。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%		計画説明実施している。	引き続き、計画書を詳しく説明する。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		相談随時対応している。臨機応変にできるよう、保護者のライフスタイルに合わせている。	相談記録管理を徹底的に行っていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	100%		保護者会開催をしている。参加は少ないが、例年参加していただく機会を作っている。	参加者増加策を考えていき、気軽に参加できるような場を作っていく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		苦情対応体制整備を整えている。	周知強化していく。

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%		通信・SNS発信を行なっている。気軽に見れるようにしている。	更新頻度向上していく必要がある。対策を考えていく。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		個人情報管理徹底している。鍵付き書庫に直している。	定期確認を行うことで、漏れなどがないようにしていくことを努めていく。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		意思伝達配慮を徹底している。	代替手段を対策を考えていく。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に関わられた事業運営を図っているか。	100%		地域活動参加したり、自分たちが主催するイベントや、協力する団体に参加して実施して。	発信強化していきます。	
	非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		各種マニュアル整備しております。どなたでも施設の中で見れるようにしております。	定期見直ししていきます。
		47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		BCP策定を行い、訓練を定期的に行っております。	実践訓練増加しています。
		48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%		健康観察実施し、定期的に職員会議に議題としてあげている。	保護者共有を行い、引き続き行なっていく。
		49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		アレルギーについては、原則養護教諭の指導のもと、医師の研修にでて知識をつけ、職員に周知している。	引き続き、定期的に研修を行なっていく。
		50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		安全管理体制整備を整えている。	点検記録可視化していくこと努める。
		51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%		安全情報共有をしている。	家庭連携強化していく。
52		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		ヒヤリハット共有・研修を定期的に行う。	分析時間確保をしていき、共有していく。	
53		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		虐待防止研修実施している。	事例検討充実を図っていく必要がある。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%		身体拘束適正運用・定期的な研修を行なっていく。	職員理解向上研修していく、サービスと質の向上に努める。		